

南半球便り（その 84）：盟友

7月20日

安倍晋三元総理が白昼選挙演説中に凶弾に倒れ落命するという極めて痛ましい事件に関し、これが豪州の地でどのように受け止められたのか、日本の方々から照会を受けました。そこで、今回はそのご報告です。



弔問記帳に訪れたアルバニー首相

1. 「豪州の真の友人」

7月8日、事件の発生がマスコミで報じられるとほぼ同時に、アボット元首相やモリソン前首相を始めとして豪州の各界要人から私の携帯に続々と電話、メールで安倍元総理に対するお見舞いと共に、容態を気遣う照会が寄せられました。

懸命の治療も空しく死去されると間もなく、アルバニー首相は記者会見を開き、「日本は真の愛国者、真のリーダーを失い、豪州は真の友を失った。」と痛切の表情で弔意を表明されました。

2. 各界からの弔意表明

翌週 11 日朝には、キャンベラの日本大使館で弔問記帳の受付を開始。真っ先に駆けつけてくれたのは、日本大使ポストから帰朝して外務貿易省次官に就任したばかりのジャン・アダムズ次官でした。

昼前には、アルバニー首相がウォン外相と連れだって来訪し、丁寧に記帳をしていただきました。むろん記帳受付は世界各国に所在する日本の在外公館で行われましたが、任国の首相と外相が揃って大使館で記帳されたのは豪州だけだったと承知しています。



アルバニー首相とウォン外相と大使公邸にて

翌 12 日には、ハーレー連邦総督夫妻が記帳にお越しになりました。加えて、米国出張中のマールズ副首相兼国防大臣は、ワシントンの日本大使館にわざわざ来訪し記帳してくれたのです。



ハーレー連邦総督も記帳のため御来訪

こうしたお悔やみの気持ちは政治家だけでなく、財界人、官僚、ジャーナリスト、シンクタンク関係者、一般市民など、豪州の各界・各層の方々から寄せられました。幾つもの美しい花束が心温まるメッセージと併せて、豪州全土から日本の大使館、総領事館に続々と届けられた有様を目の当たりにし、心打たれました。



日本大使館に寄せられた多くの花束とメッセージ

3. 日豪関係への功績

ここまで深い哀悼の意と共感が表明された背景には、長年政権にあって各国リーダーと親交を結んできた安倍元総理の知名度だけではなく、日豪関係への多大な貢献に対する評価と敬意があります。

長らく貿易・投資のつながりが主であった日豪関係を「特別な戦略的パートナーシップ」に引き上げたと評されているのが、最たるものです。自衛隊と豪州国防軍との共同訓練や南シナ海での巡航などが頻繁に行われるようになり、本年1月に岸田総理とモリソン首相によって署名された日豪円滑化協定（RAA）の交渉を開始したのも、安倍政権でした。

また、経済面では日豪経済連携協定が発効し、貿易・投資自由化の成果を積み重ねてきました。さらには、環太平洋パートナーシップ（TPP）の批准、実施に向けて豪州と緊密に協力を重ね、関係国を牽引してきた経緯があります。

クアッド（日米豪印）も、安倍元総理のイニシアティブとして豪州で高く評価されています。

4. 二つの里程碑（マイルストーン）

近年の日豪関係の急速な進展を振り返るにつれ、両国の関係者の記憶に鮮明に残っている出来事の一つが、2014年にキャンベラの豪州議会両院で行われた安倍総理の歴史的

演説でしょう。当時のアボット首相の計らいで実現し、日本の総理大臣として初めての
ことでした。



(写真提供：内閣広報室)

その4年後の2018年には、これも日本の総理として初めてダーウィンを訪問。大東亜
戦争中の1942年に日本軍のたび重なる空襲に見舞われた地において、モリソン首相(当
時)と並んで献花を行ったのです。戦後長年かけて達成されてきた日豪間の和解を、ま
さに象徴する行為でした。



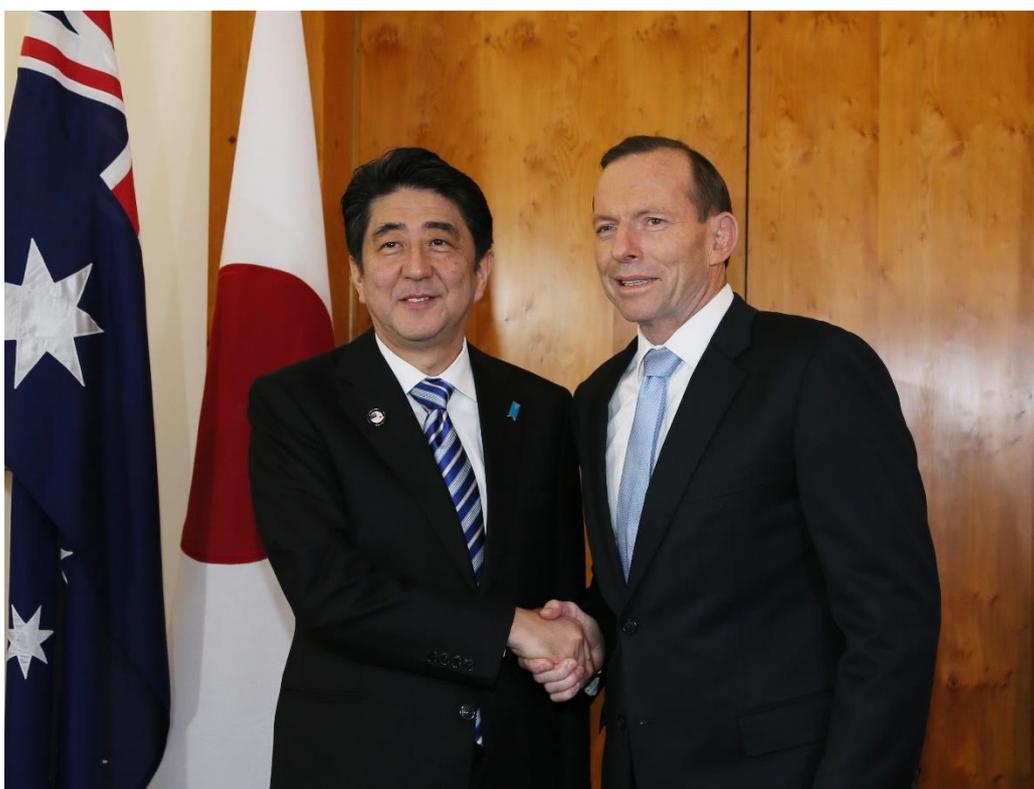
(写真提供：内閣広報室)

今回の逝去を受けて、豪州のテレビ、ラジオ、新聞から数々のインタビュー依頼が私に寄せられました。それらのインタビューでは、上記の功績、里程標を説明しておきました。

5. アボット首相という盟友の存在

しかしながら、日豪関係の進展にせよ、クアッドの発足にせよ、個々のイニシアティブが実りあるものとなるためには、相手の協力が不可欠です。外交の世界でしばしば「タンゴは一人では踊れない。」(It takes two to tango.) と称される所以です。

安倍政権時代、豪州の相手方はハワード、アボット、ターンブル、モリソン首相と変わりました。いずれの首相とも良好な協力関係が築かれてきたこと自体、特筆に値します。中でも印象的だったのは、アボット首相との気の合った二人三脚ぶりでした。



(写真提供：内閣広報室)

そのアボット首相は、日豪関係に対する功績を表彰され、本年春の叙勲で旭日大綬章を受賞されたのです。その伝達式をキャンベラの大使公邸で14日に行う予定となっていた矢先に、なんと安倍元総理銃撃事件が発生してしまったのです。

6. 勲章伝達式

アボット氏本人や東京の関係者とも相談し、悲惨な事件が起きた直後であるからこそ、こうした卑劣な行為に屈しないためにも予定どおり伝達式を行うこととなりました。

また、盟友トニーのために安倍元総理が生前に録画していたビデオ・メッセージも、伝達式会場で放映することとなりました。これまでの親交を振り返り、心からの祝意を伝えるパーソナルタッチ溢れる動画。これを見た会場の何人もの方々の目が潤んでいたのは、自然なことでした。

伝達式には、キャンベラ訪問中の金子恭之（やすし）総務大臣も出席され、乾杯の音頭をとっていただきました。在外公館で行う叙勲伝達式に日本の閣僚が出席することは極めて稀です。金子大臣のご出席は、アボット元首相をはじめとする豪州側出席者から、日豪関係のさらなる強化に対する岸田政権の熱意を示すものとして大歓迎されました。



日本から金子総務大臣も叙勲伝達式に御出席

アボット氏のご母堂、令夫人、姉妹、友人、同僚達に囲まれた伝達式は、誠に和やかで温かい雰囲気が漲り、夜が更けるまで続きました。思わずアボット氏が「晋三のスピリットが漂っている。」と評した程でした。ウイスキー「響」のグラスを傾けながら、ラウンジを埋め尽くした仲間達がトニーと共に「マイウェイ」を合唱したことなど、ほのぼのとした思い出として語り継がれるでしょう。

【伝達式での私のスピーチは[こちら](#)、アボット首相と並んで受けたテレビインタビューの様子は、[こちら](#)でご覧いただけます。】

7. 平常心で（ビジネス・アズ・ユージュアル）

先週豪州を訪問された日本の閣僚は金子大臣だけではありませんでした。萩生田光一経産大臣がシドニーで開催されたシドニー・エネルギー・フォーラムに招かれ、講演。その機会を活用して、クアッド・エネルギー大臣会合に出席。新任の豪州政府キング資源大臣、ボーエン気候変動・エネルギー大臣との会談には、私も同席しました。

奈良での凶悪事件の直後であっただけに、豪州政府関係者の間では、両大臣の豪州訪問ともキャンセルになってもやむを得ないと受け止めがあったと聞かされました。であるだけに、こうした状況に萎縮することなく両大臣が訪問を実施し、豪州との関係を前に進めるべく特段の意を用いられたことに対し、高い評価が寄せられました。

8. 岸田総理訪豪に向けて

今年5月にアルバニー首相がクアッド首脳会合出席のために訪日した際、同首相から岸田総理に対して早期の豪州訪問への強い期待が表明されました。

まさに、安倍総理・アボット首相の盟友関係が築き上げた遺産ともいえるべき日豪の特別な戦略的パートナーシップ。これを継承し、さらに積み上げていくためにも、岸田総理とアルバニー首相との間で更なる協力の絆が強化されていくことを祈念しています。

山上信吾